

日本全国『神話伝説の旅』

吉元昭治著

足を運んで撮影したフィルムカメラによ
る貴重なものである。
と前置きは」のぐらににして、内容を
読み始めて更に驚く。

第一部では高天原にほじまる日本の神
話を紹介し、神武東征と伊勢

そのあとには、日本と中国の関係で登
場する卑弥呼伝説や、中国の神々の日本
での足跡、渡来人の伝説、信仰と各種の
伝承など、およそ日本人のルーツと日本
のあるものがすべて眞面目で紹介さ
れている。読者は、これを読み進むに
とによって、日本各地にある過去の日
本人の想いを見るはずである。

評 安井廣迪

全国の伝承を網羅し詳述
数々の貴重な資料を撮影



説 猿田彦伝説、素戔鳴尊伝説、日本武
尊伝説などの解説に続いて関連の遺跡
(特に神社)をいくつも紹介していく。
これらの遺跡は、ある一つの地方にのみ
存在しているのではなく、九州、畿内、
神宮、伊邪那岐・伊邪那美伝
漏れなく網羅され、写真入りで掲載され
ているのだ。

総ページ数は1200ページにも及ぶ
にもかかわらず、写真は全てカラーであ
る(これで9800円といつ価格はどう
しても信じがたい)。それも、著者が自ら

「日本人はどこから来て、どこに行
か」としているのかを考えてみたかった
ところともすれば失いかけている祖先
からのメッセージをもう一度整理してお
くべきだ」として本書編纂の動機はみ
「と云ふを結んだと語つべきであつた
(勉誠出版・9800円+税)

『**藍溪の玉**』

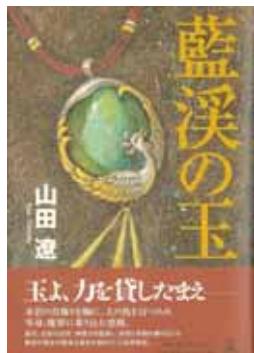
山田 遼 著

山田遼先生はレパートリーの広い、スケールの大きな長篇の書ける作家だ。

平成四年には『もうひとつの真珠湾』を刊行され、同六年には第三〇回日本医家芸術クラブ大賞を受賞された。

その後に出版された『審判』(十二年)は、意識下の修羅道を描いたものであり、『五十五年の夢』(十八年)は歴史小説『文學』で、今回は伝奇小説である。

美女の数奇な運命と純愛
著者畢生の伝奇歴史小説



評 天瀬 裕康

麗は阿賢を護るために李陽修の好意を受け、技术に励む。惠麗の学ぶ技术の中に通力がある。舅の友人・徐王建からも獎められ、その習得に励み、遊魂した惠麗が着いたのは、魔界とも思われる地下宮殿

もはや斎靈大師を抹殺し、楊一族を倒すしかない。玄洞は碧玉に祈念し、玉は無限の力を宿す。かくして決戦の時が来た。対面すると、斎靈大師はセイレーヌといつ金髪碧眼の王女だったが、激戦の末、惠麗が勝つ。

その五年後、安禄山の乱が起つた。揚州では平凡ながら惠麗が李陽修と仲睦ましく暮らし、阿賢は官界へ出るのは止め、詩作に励むのだった。

だつた。通力の師・博羅遣人は幾々の試練を課すが李

は、そのうちに惠麗母子は、楊貴妃の一族

により毒を盛られる。その背後には、斎

靈大師といつ魔道士がいた。斎靈に対抗

(幻冬社・税別1600円)

でるのは玄洞大王のみ、と聞いた惠麗は、藍溪の玉を握つて玄洞の許へ！だが、敵国の捕虜になつていた夫・哲元は敦煌で死ぬ。李陽修は惠麗に揚州への移住を奨めるが、徐王建も消息を絶つ。

もはや斎靈大師を抹殺し、楊一族を倒すしかない。玄洞は碧玉に祈念し、玉は無限の力を宿す。かくして決戦の時が来た。対面すると、斎靈大師はセイレーヌといつ金髪碧眼の王女だったが、激戦の末、惠麗が勝つ。

その五年後、安禄山の乱が起つた。揚州では平凡ながら惠麗が李陽修と仲睦ましく暮らし、阿賢は官界へ出るのは止め、詩作に励むのだった。

さて、この伝奇小説の最終章には、日本的な無常觀もあるようだ。直木賞に値する作品だが、まずは医家芸術文学賞のよつなものを贈呈できぬものか……。日本医家芸術クラブの活性化にも繋がるよつに想えるのである。

そのうちに惠麗母子は、楊貴妃の一族

相の息子、李陽修に見初められるが、盧品は宰相暗殺の嫌疑をかけられ出奔。恵

♯ 《新世界》から発信されたドヴォル ジャークの手紙と当時のアメリカ

その

半場久也



(カットも筆者)

フリツツ・ジムロツ
ク宛て》(原文ドイツ
語)訳注=ベルリンの
樂譜出版社社長)スピ
リヴィル、一八九三年
七月一日 ウィンネシ
ーク会社アイオワ州ア
メリカ合衆國
『ジムロック様!

イルですか」といいます。J.I.J.は「コーエー」
ークから十三百マイル離れたアイオワ州
のボヘニア地区です。そこで私は家族全
員と元気でありますし、あなたからの手
紙も受け取りました。ウォルフさんから
の手紙は、あなたが私に出したものと同
様、アメリカ中を回って、大分遅れて手
にしました。それから一八九三年六月六
日ベルリン発の第一回田の手紙は、Jの
スピルヴィルで私に会ったのです。
とにかく私は幸いなことに、益々調子
よく作曲していますし、かなり自由にし
ています。J.I.J.では千五百ドル（或いは
六万マルク）のサリバーをもらっています。
……そして余暇を作曲に費やす身分
のあなたの通信のことを思い出していた
だければ、何故私が自分の仕事の公開に
迷っているか分かつてもらえるでしょう。
差し当たり新しく出来た、かなりの量の
作品があり、所有しているものをお知り
せします。

オーケストラのための三つの作曲（新作）「ア・イ・オ・リン」、ナル・ピアノのためのトッカ（ドゥ・ギー）

ナルのためのロンド（新作）

ホ短調父譜曲（新作）

弦楽四重奏曲／長調（新作）

その他「イ・オ・ラ」挺の弦楽五重奏曲を作曲中です。それから『ボヘミアの森』からナル・ピアノのために『安らぎ』を編曲しました。これはチャーリストにとっては愛けるでしょ。これら全ての曲は（未完成の五重奏曲は別として）もろあなたが所有することになります。値段を書きます。

序曲(一、二、三曲)に付	一千マルク
《ドワムキ》	一千マルク
木短調交響曲	一千マルク
ロンド(チロ独奏)	五百マルク
ヘ長調弦楽四重奏曲	五百マルク
《安らぎ》チロ独奏	五百マルク
合計七千五百マルク	

(タイトルは内側の、ドイツ語とボヘミア語にしてください。) 私はあなたがいつも支払ってください以上には求めません。私は九月十五日に学校の授業が始まるヨーロークへ向かいます。ですからそこであなたからの返事を待っています。けれども距離がとても遠いので(手紙では十六日必要です)作品が十月か十一月には出来あがつてゐるため、物事が無限に延期される」と恐れるのです。けれども(同様に)先刻の承知思ひます。私はヨーロークの初演で序曲をやつました(木短調の交響曲は未だですが)。そしてそれが、私の最も良いオーケストラ作品であると思つています。序曲のオーケストラ用のパート譜はヨーロークの音楽院にあり、そこから六月にはあなたのものとへ送る」とができるでしょ。他の全部のスコアとパート譜はヨーロークあります。新しい木短調交響曲のパート譜はありません。これをあなたはベルリンで「プレーさせねばならぬ」とあります。

出版社と楽譜の価格交渉

『ドゥムキー』は最初に出版する」とが出来ます。ロンドも(+)ロードの曲『安らぎ』もです。結果的にはあなたが好きなようになさればよこのです。二曲の序曲の四手のピアノ版は直ちに送れます。そのもの価格は十月までに用意します。

『ドゥムキー』の四手用の編曲を作りませんでした。そういうことは大変難しいと思ひます。そのことを何度も考へました」とはためらつてゐるのです。私はそれがほんとんど不可能に思ひます。そのことをする気はありません。他の誰かがやってくれるでしょ。私は進んでやる気はありません。あまり時間が無いのです。恐らくヨーロークでも私の生徒の誰かにそれをやらせるでしょ。今ことに六人の子供全部がいて満足しています。来年六月にヨーロッパへ行いつかと思つてます。私

『メント』(+)ではジムロック出版社の社長へ宛てて現況を書いています。最近作った曲の紹介と、具体的な原価を提示している。じよで少し気になるのは、ピアノ・トリオ『ドゥムキー』の値段がある有名な弦楽四重奏曲『アメリカ』の四倍で『新世界』木短調交響曲と同じだと言つことである。『ドゥムキー』は一八九〇年十一月から九十一年一月にかけて作られてゐるので、当然渡米前の作品である。この曲はウクライナ起源の民族音楽である『ドゥムカ』を大いに駆使して成功した作品であり、彼の代表作であることは間違いない。多分、印刷される前に試奏され評判が大変よかつたのである。彼の自信作であったことは間違いない。それに比して『アメリカ』は出来たばかりで評判は未だ分からないが、今考えてみると、現在は『アメリカ』の方が演奏会のプログラムに載る」とがましいと思われ。

さて(+)で、手紙の宛て先であるジム

ロックとの関係について少し触れなければならぬ。話は一八七七年十一月に遡るが、すでに十四年から毎年オーストリア国家選手金制度に応募し採用された彼の才能を見込んだ音楽評論家ハンス・リックから、ブームスに送られた楽譜が『モラヴィア十唱曲集』で、これに目を通したブームスは、その曲の素晴らしさに驚嘆し、早速ドヴォルジャークに手紙を出して彼を賞賛し、同時にベルリンの出版社ジムロックへも推薦状を書き、この作曲家に注意するのを促した。それからジムロックは本気になって彼の作品を出版することになった。

しかし大曲は売れにくい関係か、ドヴォルジャークには歌曲集とか舞踊曲と言つた商品を求めていた。そのことに作曲家は常々愚痴をこぼしている。一方、彼はブームスとは親交を結び、お互いにお互いの家を訪問しあった。なお、文中「……もしかしながら一年前、ブームスのあなたの通信のことについて出していた」

だければ」とあるジムロックからの手紙は、『』の書簡集に収録されていないので不明だが、その手紙に対するドヴォルジヤークの返事が出てるので引用する。

それはブームスから一八九〇年十月十一日付のものである。いきなり冒頭から「あなたも素晴らしい考え方をお持ちですね」と、大変皮肉を込めた言い方で始まつていて、続いて「私が作曲し、あなたに提供せよとあり、その結果あなたは簡単にお断りになる! あなたは私に去年コラスとオルガンのための『』を拒否せども、そして今私の新しい交響曲を拒否なさつた後、私はあなたのきつこ要求のせいであなたが私の大曲を引き受けないことに甘んじなければなりません。しかし私は愚弄されませんぞ!……(中略)……私はそれ故、これからも私の作品に対して私の欲する金額を要求するでしょう。あなたは私にそれを支払い、私はあなたにそれを渡すと言つことです。

最後に、私が十一年前あたかも経験不足からというか、馬鹿だったからか、署名をしてしまった契約書を私のために口頭してくください。あなたが法的に追求するならば、私はそれを持つて権威のある仲間達に回し読みしてもらい、審議することが出来ます。あなたはいつも言つておられますね、私の作品は売れないこと。では何故それらを欲しがつて私に寄越せども命令するのですか。もしあなたが私のものを拒否するのなら、私が自分のために他の出版社で、いくらか稼ぐことを何故許さないのですか? これは誰にも理解しない」とだ。(後略)

『』の手紙を読むと、彼は出版社ジムロックに大分振り回されていたらしく、ジムロックは売れ行きの良かつた『』や舞踊曲集に味をしめて、彼に歌曲や舞曲の様な誰でも飛びつくものをしつこく要求したのである。それに反して作曲家は『』やシンドラーといった大規模な曲を出版して欲しかったのだ。しかしその後、和解したように見える。